



2025

第 34 回世界連邦推進綾部市小・中学生
ポスター・作文コンクール

優秀作品集

地球市民の集い実行委員会



はじめに

人類は今、戦争や民族紛争、食料危機、環境破壊、感染症、核の脅威など、存続に関わる深刻な課題に直面しています。これらの問題は、一つの市や国だけで解決できるものではありません。かけがえのない地球を守るためにはどうしたらいいのでしょうか。

そこで、平和の尊さや人類の一員としての意識を深めることを目的に、ポスターと作文を応募していただきました。作品には、未来への希望や行動の大切さが込められています。ぜひ、ご覧ください。



〈世界連邦とは...〉

綾部市は、昭和 25 年 10 月 14 日、我が国初となる世界連邦都市宣言を行いました。

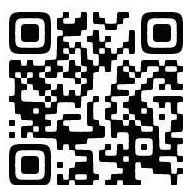
一国だけでは解決できない問題に対して、すべての国々の独自性を尊重しながら地球規模の問題を扱う民主的な国際組織、それが「世界連邦」です。



世界連邦 PR 動画「未来へつなぐ平和都市 綾部」を公開！

綾部市が、全国に先駆けて世界連邦都市宣言を行ってから 70 周年を迎えた事を記念し、令和 2 年に製作した動画を公開しています。平和な世界を希求し続けてきた先人たちのヒストリーをぜひご覧ください。

スマートフォンで右記の
QR コードを読み取って
ご覧いただけます。



目 次

ポスターの部

【最優秀】	同じ空の下、同じ風に乗って、平和を運ぼう	豊里中学校	2年	宇野	らんさ 蘭紗	3
【優 秀】	輝け平和	豊里中学校	1年	片岡	ゆな 優奈	4
	些細な行動が海の命を奪う	何北中学校	2年	金田	かな	5
【佳 作】	平和はサイコー	中筋小学校	5年	土田	そうた 創大	6
	幸せを分かち合おう	豊里小学校	5年	野間	こゆり 心結	7
	みんなで世界をよくしよう	吉美小学校	6年	山口	ゆうき 侑暉	8
	同じ形に宿る 違う美しさ	何北中学校	2年	白波瀬	まな 愛奈	9
	bring happiness	東綾中学校	2年	白波瀬	未緒	10



作文の部

【最優秀】	命のバトン	東綾中学校	3年	波多野	光	11
【優 秀】	平和な世界をずっと願っている	豊里中学校	1年	片岡	ゆな 優奈	12
	心からの笑顔が人と人をつなぐ	豊里中学校	1年	村上	ゆり	13
【佳 作】	環境問題と僕たちの未来	豊里中学校	1年	重野	りょうた 綾汰	14
	節目の年	豊里中学校	1年	西山	ちひろ 千嘉	15
	健康は世界の問題	東綾中学校	1年	四方	はると 暖音	16



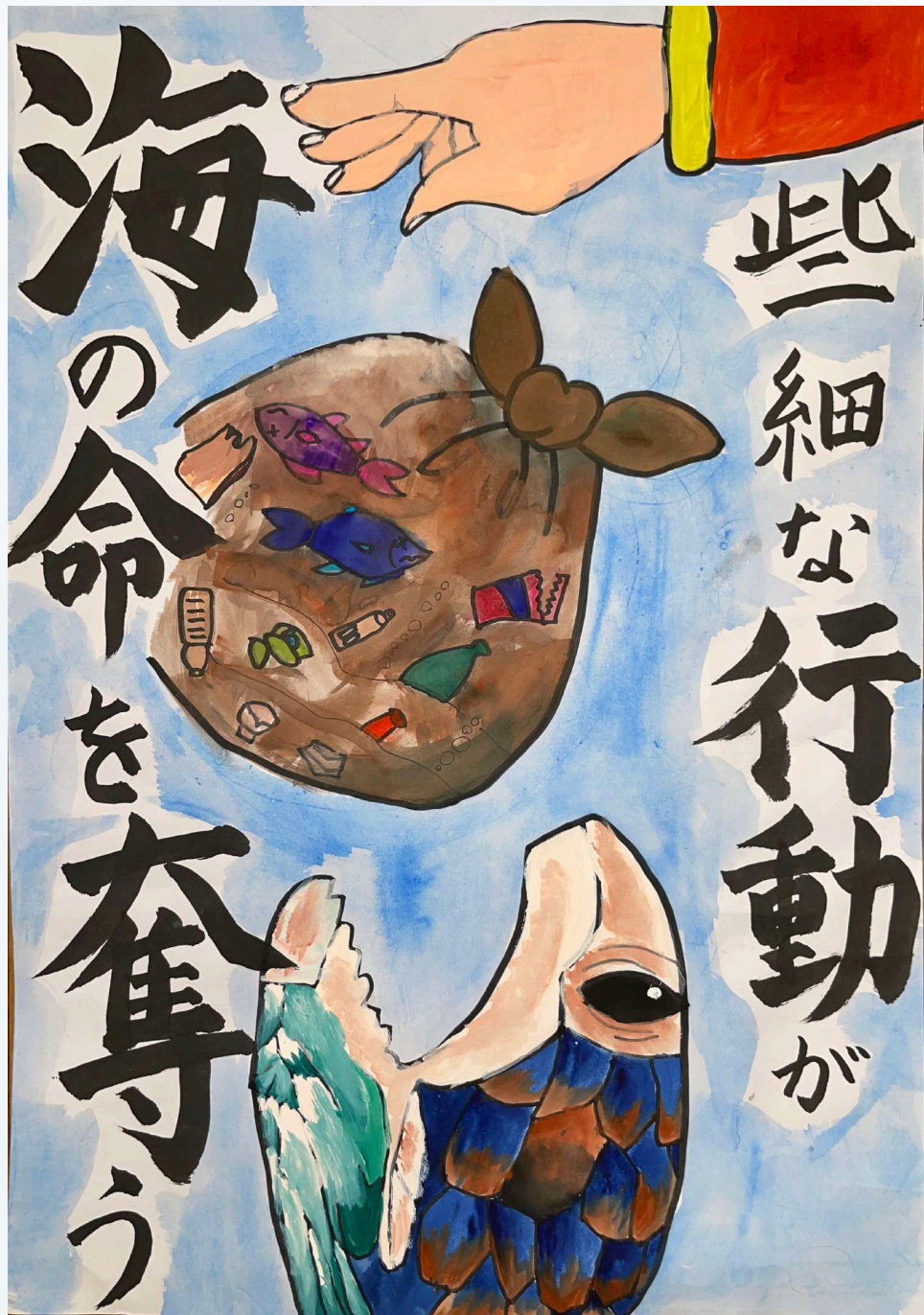
同じ空の下、同じ風に乗って、
平和を運ぼう

豊里中学校 2年 宇野 蘭紗



輝け平和

豊里中学校 1年 片岡 優奈



些細な行動が海の命を奪う

何北中学校 2年 金田 かな



平和はサイコー

中筋小学校 5年 土田 創大



幸せを分かち合おう

豊里小学校 5年 野間 心結



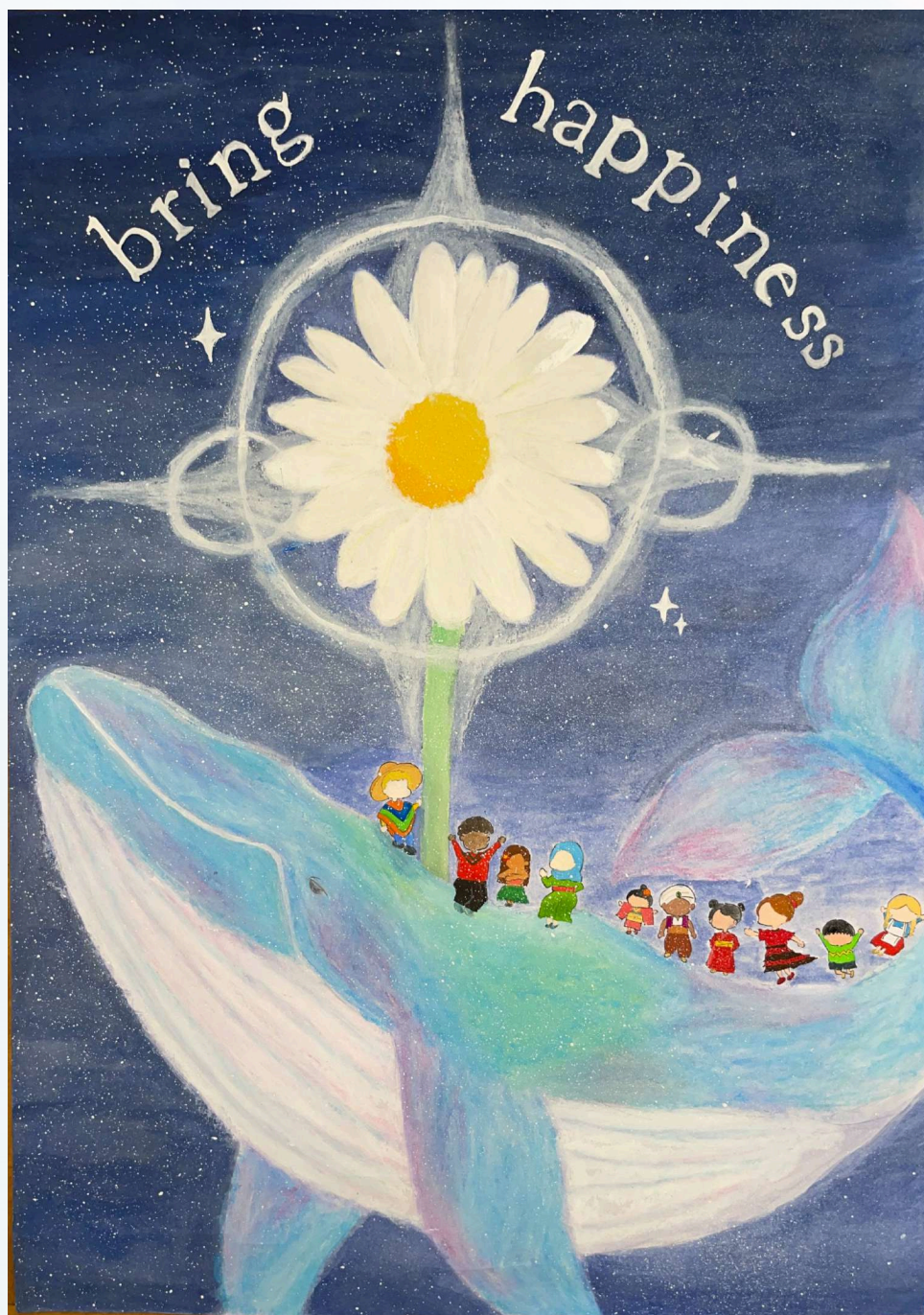
みんなで世界をよくしよう

吉美小学校 6年 山口 侑暉



同じ形に宿る 違う美しさ

何北中学校 2年 白波瀬 愛奈



bring happiness

東綾中学校 2年 白波瀬 未緒



命のバトン

東綾中学校 3年 波多野 光

八月六日。ニュースでは黙祷が行われていた。八十年前の八時十五分。広島に原子力爆弾が落とされた。この瞬間、無数の命が奪われた。だが、この話を聞いただけでは、私には関係のない昔の話。私にとって戦争とは、その程度のものだった。

ある日、することもなく SNS を見ていた私は「この傷を撮りなさい」そんな見出しと、言葉で表せないほど痛々しいおじいさんの背中の写真が貼り付けられている記事を見つけた。誰が見ても痛々しい。それがこの写真を見たときに出了言葉だった。

詳しく記事を読んでみるとその痛々しいおじいさんは被害者でその写真を撮った人は江成常夫さんという写真家だということが分かった。常夫さんは戦争で人生を翻弄された人々を記録し続けることをして、半世紀をわたって活動しているという。中でも向き合ってきたのが原爆被害だ。約五十人の被害者の家を訪ね歩き、取材を重ねていった。その中の一人が痛々しい背中の写真の提供者の谷口さんだった。

長崎市の被爆者である谷口稜嘩さんは、十六歳で被爆し、熱線で背中が真っ赤に焼ける大火傷を負った。そんな谷口さんの元に被爆当時の様子について聞きたいと訪れたのが、江成さんだった。谷口さんは江成さんに「この傷を撮りなさい」と言い、自分の背中を撮影するように言った。最初は過酷な傷を撮影することに申し訳なさを感じていた江成さんだったが、その身をさらけ出してでも原爆の残虐性を伝えようとする谷口さんの「覚悟」を受け取ったという。

谷口さんの他にも、記事の中には私と同じくらいの子と学生服や、お弁当箱もあった。原爆が落ちる前まで、一緒に歩いていた友達が、家族が一瞬にして消し去られ、自分の周りが火の海になる。今ではありえないようなことがこの瞬間起こったと思うと、大きなショックと同時に戦争への恐怖心を覚えた。

今までの当たり前の日常。それが一つの核によって突然奪われた。そんな悲しくて残酷な日。もう二度と起こしてはならない、原子爆弾が落とされた日。だが、その悲劇を経験した被爆者の方たちが年々少なくなり、原爆というのはどこか遠い存在になっている。これは遠い存在で片付けてよいものだろうか？それはあまりに無責任すぎる。なぜなら、あの原爆がなければ日本は今とは違っただろう。今でも武器を持ち、土地を奪い、殺戮を繰り返す。そんな毎日だっただろう。日本の平和があるのは原爆があってこそだったのだ。

だから、現代の子供が原爆に関心が薄いのは見た目以上の問題だ。もし、原爆の、戦争の怖さを知らないまま大人になると、またあの悲劇が繰り返されてしまう可能性がある。そうならないためにも、私たち子供は原爆の残虐性を知っていく必要があるだろう。

この仕事について江成さんは、こんな言葉を残している。「この見るに堪えないような形を残した遺品の裏には、その亡くなった人たちがいる。遺品は犠牲者の“いのちの証し”と考え写真を撮ってきました」遺品をいのちの証しという。それはこれまでずっと戦争の写真を撮ってきた江成さんだからこそ出た言葉だと思った。

今なら記事の見出しになった「この傷を撮りなさい」という言葉と、写真の意味が分かる気がする。ただ痛々しいだけじゃない。谷口さんのいのちの証しであり、谷口さんから私たちに渡された命のバトン。谷口さんのような、残酷な命のバトンを生まないためにも、私たちが後世へ繋いでいかなければならない。

私は、テレビの前で黙祷する。今はただ、ただその命たちが報われるように祈ることしかできない。そんな祈ることしかできない自分はちっぽけだ。だからこそ、原爆を、戦争を他人ごとになぜ受け止めたい。



平和な世界をずっと願っている

豊里中学校 1年 片岡 優奈

私が思う平和は、争いや戦争がなく、誰もが幸せに生きることができることです。そのために、綾部市は、世界連邦宣言をしたり、戦争をしないことを宣言しているのです。

このことをもっと詳しく知るために、おばあちゃんと綾部市図書館に行きました。その日は、世界連邦の展示がしてありました。そこで、世界連邦とは何なのか、平和とはどんなことなのかを学びました。今から八十年前、広島と長崎に原子力爆弾が落とされました。その時の実際の写真などが展示してありました。実際に被爆された人の話を聞いて、高校生の方が、絵を描いたものも展示されていました。その絵には、黒い雨などが描かれていました。また、実際に被爆された方の言葉も書かれていました。「思い出したくない風景」と書かれていました。その絵と、その言葉を見るだけで、実際に戦争にはあったことがないのに、心がしめつけられました。

また、爆弾が爆発した範囲にいらなくても、放射線という光が体の中に入って、後遺症などが残って、苦しむ人々がたくさんいたそうです。中には、「死にたい、早く殺してくれ」と言っていた人もいます。それくらい辛いのが戦争です。

そして、戦争は、何も悪くない人まで巻き込まれるし、たくさんの人の命が一瞬でうばわれます。

日本は世界で一番最初に原子爆弾が落とされました。だからこそ、今、戦争はだめだと宣言し、綾部市は、世界連邦宣言をしているのです。

今も、世界の中では、戦争をしている国があります。今は、ボタン一つ押すだけで、たくさんの人の命が一瞬でうばわれます。ウクライナとロシアの戦争をニュースで見ていた時には、「何でこんなに酷いことをするのだろうか?」、「ここまでしなくてもいいのに」、「とにかく早く戦争が終わってほしい」という気持ちでいっぱいでした。ウクライナの人々の話を聞いていても、「いつも爆弾が爆発した大きい音が聞こえる」、「この国から逃げたい」、「早く戦争が終わってほしい」と言っていました。私たちは、何もできなくて、悲しいです。一刻も早く戦争が終わることを祈ることしかできません。

お店や駅の前で、大人の方が、「戦争反対」と演説しているのをよく見かけます。この言葉が、戦争をしている国に届くことを願います。みんなで力を合わせ、平和を創りたいです。そのために、私たちにもできることを自ら探し、自ら動くことを改めて心がけたいと思いました。

いつまでも、平和な世界で、誰もが幸せな世界になることをずっと願っています。



心からの笑顔が人と人をつなぐ

豊里中学校 1年 村上 ゆり

笑顔になると言われて思い浮かぶのは遊んでいる時、何かを見ている時、誰かが笑っている時など、いろいろあると思います。ですが私は、「心からの笑顔」が大切なのではないかと考えました。それはただ楽しい、表情に笑みが浮かんでいるということだけではないと思います。心からの笑顔は、みんなが安心して笑える、笑い合える、そして信じ合えることだと思います。今心から笑えている人も多いと思います。でも世界を見ると、悲しみや不安が飛び交っています。笑顔には人と人をつなぐ大きな力があると思っています。私はそんな笑顔が絶えない、希望があふれる世界を目指したいです。

けれど、世界にはまだ心から笑えていない人がたくさんいます。戦争で家族や家、生まれ育った街がこわされてしまった人。差別や病気、貧困に苦しむ人がいます。私は、普段自分がしたいことができ、食べたいものも食べられて、家族と過ごせる家があるということをいつものことだから当たり前のように感じていました。

でもテレビで戦争の話を見たり、食べ物を食べられずに命の危険を感じている人の姿を見て、これが決して当たり前ではないということに気がきました。国にはそれぞれ昔からの風習や文化など違うところがたくさんあります。だからこそ争いが生まれることもあります。でも、お互いに認め合い、尊敬し合い、信じ合い、協力し合って生活していくことが平和な世界をつくっていく上で、すごく大切なことだと私は考えました。笑顔は人と人をつなぐ大きな力があるということは、私が経験して感じたことがあります。それは、私が落ち込んでいた時に話しかけてくれた人が、すごく笑顔で心がすごく明るくなって、元気が出たことです。なので私は笑顔にはすごく大きな力があると考えています。

笑顔には、言葉が通じなくても国境を越えて人と人をつなげられる力があります。私たち一人ひとりがそれを意識して、世界の平和について何ができるかを考え、行動に移すことで明るい未来への道は近づくと思います。私は誰もが安心して暮らせる世界を作りたいです。そのために誰に対しても優しく笑顔で接していきたいです。その輪が広がればきっと安心して暮らせる人が増えると思います。困っている人を助けたり何十億人といえる中で出会えた大切な人みんなと笑顔で話すことなど、目の前にあることに目を向けて、優しい心で行動することが大切だと思います。そうすればきっと「心からの笑顔」があふれた世界に一步步近づけて、争いのない世界連邦の実現につながると信じています。



環境問題と僕たちの未来

豊里中学校 1年 重野 綾汰

現代社会において、環境問題は最も深刻な課題の一つとなっています。地球温暖化、森林伐採、海洋汚染など、環境は僕たちの想像を超えて悪化し続けています。これからの問題は単に自然環境にとどまらず、僕たちの生活や未来に大きな影響を与えています。僕たちは、このような問題にしんげんに向き合い、解決に向けて行動をしていかなければいけない時期に来ていると思います。

まず、地球温暖化は、二酸化炭素やメタンガスなどの温室効果ガスが大量に排出されることによって引き起こされます。これにより、地球の気温が上昇し極端な気象現象や異常気象が頻繁に発生しています。身近では、七月に福知山市で初の四十度超えが観測されました。各地では、集中豪雨、干ばつなどの自然災害が増え、農作物への影響や水不足を引き起こしています。水道の水を出してもぬるま湯が出てくる、熱中症による救急搬送や死亡者の増加。今、誰もがこの異常気象を身近に感じている事と思います。

また、近年ニュースでよく見る山火事は地球温暖化と互いに影響し合う関係にあります。地球温暖化により気温上昇や乾燥、強風が増加します。気温上昇は土壌や植物の水分を蒸発させ乾燥した状態が続く、枯れ葉や落ち葉などが燃えやすくなります。強風は火災を広範囲に拡大させ、消火活動を困難にします。山火事により、森林が減少すると、二酸化炭素の吸収量が減少し、これにより温室効果ガスや有害物質も放出され、大気を汚染します。

次に、森林伐採については、世界中で森林が伐採されておりその結果森林が持っていた機能が失われつつあります。森林は二酸化炭素を吸収し、酸素を供給するだけでなく、森林の中には多くの動植物が生息しており、森林破壊は多くの動植物を絶滅に追いやり生物多様性を低下させます。

さらに、海洋汚染は、人間の活動によりプラスチックごみ、化学物質、生活排水などが海に流れ込むことで、魚や海鳥、珊瑚礁の命を奪う原因となり、将来的な食料供給や地球環境全体に悪影響を及ぼします。

これらの影響は僕たちの生活にとって大きなリスクとなります。では、今僕たち一人ひとりにできることは何でしょうか。

まず最初に、日常生活の中で環境に配慮した行動をとる必要があります。そのためには、省エネ家電の使用や、節電、節水を心がけます。その他にゴミの処理には大量の二酸化炭素が排出されるので、リサイクルに出す、エコバックやマイボトルを使い、ごみを減らします。また、食料を廃棄すると生産や加工、輸送のために使った資源やエネルギーも無駄にすることになったり、ゴミの埋立地で食品が腐敗すると強力な温室効果ガスの一種であるメタンガスが発生してしまうので食品ロスを減らします。その他に、庭で植物を育て緑を増やすことは、地球温暖化の緩和に繋がります。

地球温暖化は日々進行しています。何も対策しなければ今後も気温上昇はさらに進みます。これ以上の温暖化を避けるためには、二酸化炭素の排出を減らす必要があります。日本の二酸化炭素の排出量のうち家庭から排出されるのは一五、九パーセントで、これを減らせるかどうかは僕たち一人ひとりの行動にかかっています。僕たちや動植物の生活、命に関わってくる地球温暖化現象。地球は自分一人の物ではありません。地球に住まわせてもらっている以上、環境を守って行かなければいけません。一人ひとりのエコ意識を高めることにより、小さな努力は大きな変化に繋がっていけるはずです。



節目の年

豊里中学校 1年 西山 千嘉

今年は戦後八十年らしい。八十年前の八月十五日、日本はアメリカとの戦争に負けたらしい。なぜ日本は負けるような戦争をしたのだろうか。調べてみると、日本は資源の確保と国の領土を広げて勢力を拡大したかったのだそうだ。資源は輸入でも確保できたはずなのにどうして日本は戦争をしてまで確保したかったのか。それは、自分たちの納得できる量の資源を確保したかったからだと思う。現代を生きる僕は、戦争をするくらいなら日本も輸入をしてお金を稼ぎ、それと引き換えにほしいものを買えばいいのと思う。なぜ、死人やけが人がたくさん出てしまう戦争をしたのか。それは激動する世界の中で力をつけるためには、輸入で確保する量じゃ満足できなかったからだと思う。また、アメリカは当時世界の中でも一番技術が進んでおり、お金も資源もたくさんあったので、無理矢理にでもお金と資源をもぎとる必要もあったのではないだろうか。第二次世界大戦は、ヨーロッパで起きたポーランド侵攻とイギリスとフランスにドイツが宣戦布告したことが主な始まりらしい。そしてその一部のヨーロッパの出来事が世界全体を巻き込んでしまった。最終的に日本では、終戦の年の八月六日に広島へ、八月九日に長崎へ原爆が投下された。戦争で軍人以外の人を無差別に殺害する行為は国際法に違反しているのだという。それだけ戦争は人々の心を狂わせてしまう。

戦争をする理由はいつの時代でも、どここの国においても同じなのだそうだ。石油などの資源の確保、国の領土や勢力の拡大、宗教の違いから起きる。だから一方的で不公平な、輸出入にならないように心掛けたり、差別にならないように違いを理解し合ったりして、すべての物事においてなるべく公平になるようにみんなが考えることができれば戦争はきっと生まれなくなると思う。

僕のひいおじいちゃんは八十年前、ちょうど二十歳だった。七人兄弟の長男だった。しかもひいおじいちゃん以外の兄妹は全員女の子。暮らしは貧しく、自ら志願して軍隊に入ろうとしたそうだ。舞鶴の兵隊の訓練所でいつでも戦地に行けるように準備していたが、その時に終戦の知らせが入った。結局ひいおじいちゃんは戦地に行かずに済んだそうだ。もし戦地に行き、亡くなっていたら僕のおばあちゃんは生まれないうし、お父さんも生まれなかった。当然、僕も生まれなかったということになる。当時は若くて体の丈夫な男子は絶対に戦争に行って、立派に戦い、死ぬことが当たり前のことだった。しかし、「家が絶える」ことに配慮があったおかげで、今僕は生きている。当時の極限の状態の日本でもそんな配慮ができたのだから、今はもっといろんなことを理解しあい、配慮しあうことができるんじゃないかなと思う。僕は、今生きている奇跡に感謝を忘れずにこれからも生きていきたい。そして、そんな奇跡で生まれてくる人がいなくなる世の中が当たり前になるように世界全体がつながりを持ってほしいと思う。大きな一つの国のように。



健康は世界の問題

東綾中学校 1 年 四方 暖音

僕が健康について考えたのは、ユニセフの広告を見て、多くの子供たちが亡くなっている原因は何なのかと思ったからです。実際に、戦争や環境問題で、多くの人々が亡くなっています。今、ロシアとウクライナやイスラエルとイランなどが戦争をして、互いに多くの人々が亡くなっています。しかし、多くの人々が亡くなる原因は、戦争だけでなく病気もあります。

調べてみると、途上国を中心に、年間五三十万人以上の 5 歳未満の子供が亡くなっていて、そのほとんどが治療したり予防したりできる病です。その子供が亡くなる主な原因は、国の貧しさなどによる、医療サービス不十分さや、衛生環境が整っていないことなどと、病気にかかっても、どうしても治療できない理由があります。また、大人も病気で苦しんでいます。世界三大感染症のマラリア、エイズ、結核などによって、感染しています。マラリアは蚊による感染、エイズは、免疫力の低下による感染、結核は空気による感染です。いっぽう、先進国にも健康に関する問題があります。それは、生活習慣病や、精神的なストレスによる心の病です。生活習慣病の代表例として。タバコや飲酒、運動不足、ストレスによる過食、偏食などがあります。ストレスは、人間関係や仕事などが原因になる事もあります。これらなどにより、うつ病になってしまうことがあることが今、先進国の中で、大きな問題として注目されています。これらは、自分で意識すれば、改善することができる可能性があります。しかし、ストレスは、自力で改善する事が困難です。つまり、国の貧しさだけが、健康問題の原因とは言えません。

ところで、みなさんは紛争や自然災害などの人命に関わる大きな問題が起きたら、いち早くかけつけてくれる、そんな団体を知っていますか。それは、国境なき医師団です。感染症患者や貧困などの理由で医療サービスを受けられない人なども対象で、実際にシリアやアフガニスタンなどの紛争地域での医療活動や、東日本大震災などでも緊急援助活動を行っています。一九九九年に、その功績で、ノーベル平和賞を受賞しました。現在、日本を含む世界中に三八の事務局があります。

これらのことから、気軽に病院に行ける社会を実現させることや、教育、支援が大切だという事が分かります。日本も、高齢化による、人材不足や医療費、介護費の増大などの問題があり、気軽に病院に行けない社会になってしまうかもしれません。アフリカも医師の不足、医療施設、資材の不足などの問題があります。途上国、先進国を問わず、高い医療費で家族や自身の負担が大きくなっています。それを解決するためには、教育と支援が必要不可欠です。病気だけに注目していて、病気にならないことが健康だと思っていたけれど、実際に調べてみると、病気にならないような体づくり、社会の仕組み、環境が良い状態だということを知りました。

このように、世界は多くの問題を抱えている。その問題の中で、自分たちなりにできることを探し、解決していかなければならない。

世界連邦都市宣言（昭和 25 年 10 月 14 日議決）

綾部市は日本国憲法を貫く平和精神に基いて世界連邦建設の主旨を賛し、全地球の人々と共に永久平和確立に邁進することを宣言する

綾部市市民憲章（昭和 49 年 11 月 3 日制定）

私たち綾部市民は、丹波の美しい山河と豊かな伝統をもつふるさとを誇りとし、郷土愛に燃え、自然と人間が真に調和する新しい田園都市の実現をめざして、ここに市民憲章を定め、これを守り実行することを誓います。

- 一、平和をねがい、祈りのあるまちにしよう。
- 一、自治を高め、心のつながりのあるまちにしよう。
- 一、教育をたいせつにし、文化のかおるまちにしよう。
- 一、環境をととのえ、健康のあふれるまちにしよう。
- 一、産業をおこし、豊かなくらしのあるまちにしよう。
- 一、計画を定め、輝かしいあしたをひらくまちにしよう。

平和と環境の日（平成 7 年 10 月 14 日告示）

綾部市が全国に先駆けて世界連邦都市宣言を行った日である 10 月 14 日を「平和と環境の日」と定め、毎年、全市を挙げて宣言の原点に立脚し、世界の永久平和実現と地球環境保護への誓いの日とする。



世界連邦のマークは地球を表したもので、世界的に結ばれているという意味で二重丸に緯度と経度を示す十字を組み合わせ、周囲の英文で「世界法による世界平和」を唱えています。

世界連邦マーク

2025 年（令和 7 年）10 月

地球市民の集い実行委員会

構成団体：綾部市・綾部市環境市民会議・綾部市議会・綾部市教育委員会・
綾部市市民憲章推進協議会・一般社団法人 綾部青年会議所・
綾部世界連邦運動協会

事務局：綾部市 企画総務部 企画政策課

〒623-8501 京都府綾部市若竹町 8 番地の 1 TEL 0773-42-4217